

授業科目 音声学

【担当教員名】 志村 栄二		対象学年	1	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：GI0】 言語聴覚士として必要な音声学の知識を習得する。					
【学習目標】 1. 音声学とはどのような分野かを理解する。 2. 調音の場所や方法について記述する。 3. 第1次、第2次基本母音を理解する。 4. 日本語の分節的側面（母音、子音）について理解する。 5. 日本語の超分節的側面（アクセントなど）について述べる。 6. 音韻論と音素論					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	音声と音声学、調音器官の構造と働き			1, 2	
2	単音とその算出、子音の分類方法			2, 4	
3	母音の分類方法（第1次基本母音）			2, 3	
4	母音の分類方法（第2次基本母音）			2, 3	
5	母音におけるさまざまな特徴			2, 4	
6	IPAにおける肺臓気流子音 1			2, 4	
7	IPAにおける肺臓気流子音 2			2, 4	
8	子音におけるさまざまな特徴と、喉頭・軟口蓋気流子音			2, 4	
9	音節とモーラ			5	
10	日本語のサウンドスペクトログラム 1（母音の特徴）			4	
11	日本語のサウンドスペクトログラム 2（子音の特徴）			4	
12	日本語の超分節的側面側面 1（アクセント、イントネーション、リズム）			5	
13	日本語の超分節的側面側面 2（ポーズ、速さ、強調）			5	
14	音素と音素論			6	
15	まとめ			1～6	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		日本語音声学入門【改訂版】	齋藤純男	三省堂	2007・2,000円＋税
参考書		日本語音声学 言語の構造 音声・音韻編 一理論と分析一	天沼 寧、大坪一夫、水谷 修 柴谷方良、影山太郎、田守育啓	くろしお出版 くろしお出版	1989・1,800円＋税 1981・2,500円＋税
その他の資料					
【評価方法】 2/3以上の出席をして定期試験受験資格を得られる。 成績は原則として定期試験の点数をもって評価する。			【履修上の留意点】 インターネット上のIPAモジュールを参照することを勧める。		